

令和 5 年 8 月 14 日

東員町議会 北勢線対策検討特別委員会

委員長 水谷 喜和 様

東員町議会

広田 久男

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5 年 7 月 25 日（火） ～ 令和 5 年 7 月 26 日（水）【2 日間】
研修（視察）先	25 日（火）衆議院議員会館～国土交通省鉄道局 26 日（水）銚子市役所～銚子電気鉄道
目的（テーマ等）	25 日（火）北勢線に係る運営補助金等について 26 日（水）銚子電鉄の運賃外収入等について
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

〔氏名：広田久男〕

研修概要、内容、所感

I. 25 日(火) 国土交通省鉄道局 鉄道事業課

1. 研修内容:ローカル鉄道に対する支援について

- ・国土交通省で地方鉄道の再生を担当している吉田氏、黒鳥氏に国の支援制度について説明を受け、いろいろと意見交換を行いました。
- ・国は、地域が主体となつて行う意欲的な取り組みに対しては、積極的に支援していきます。という姿勢です。

つまり、地域とは、鉄道事業者と地方自治体、地域住民や企業など、鉄道を取り巻く全ての人たちがやる気を出して支援に係わることを言います。

- ・北勢線の場合は、関係者で構成される「北勢線事業運営協議会」を H14 年(2002 年)に設け資金補助を出し、駅の統廃合、車両の高速化・冷房化、P&R(駐車して乗り換える)、各種イベント開催など事業改善に取り組んでいますが伸び悩み状態。
- ・とにかく国は、下記に示すような多種のローカル鉄道支援制度を設けていることを知りました。

- 1) 鉄道施設総合安全対策事業費補助(補助率 1/2~1/3)
- 2) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金(補助率 1/3)
- 3) 訪日外国人旅行者受入環境緊急対策事業費補助金(インバウンド対応型鉄軌道車両整備事業)
- 4) 幹線鉄道等活性化事業費補助(補助率 1/3)
- 5) 社会資本整備総合交付金に地域公共交通再構築事業が追加(補助率 20%)
- 6) 地域公共交通再構築調査事業

2. 研修所感

- ・理解したことは、北勢線を存続してゆくために、何をどのようにして収益を増やしてゆくの、その計画を関係者で考えて強力に推進してゆくことだと結論を得ました。

例えば、北勢線利用者を増やす個人的な考えとして、

A) 学校や商業施設を沿線地域に誘致する。

B) 駅の有効活用(生産物販売、駅の勉強ルーム、駅のビアパブ、レンタサイクル・サイクルトレイン etc)

北勢線の場合、沿線人口はもともと多いので、いかにして利用者を増やしてゆくかということが問題の核心であり、その施策を考えつくかが決め手です。

- ・そして、北勢線を再生することは北勢線だけにとどまらず、地域活性化、まちづくり、観光政策などすべてに結びつく、北勢地区全体を発展させる大規模な事業であると判断しました。

Ⅱ. 26 日(水) 銚子市役所～銚子電気鉄道

1. 研修内容:銚子電鉄の運賃外収入等について

- ・ 銚子電気鉄道株式会社(以下銚子電鉄と言う)は、千葉県の最東端に位置する銚子市を走る延長 6.4km(西桑名駅から七和駅くらいの距離相当)のローカル鉄道で、利用客数は約 300 人/日程度(北勢線は約 2500 人/日)の小規模な鉄道です。
 - ・ 普通なら倒産しているはずの弱小鉄道ですが、銚子電鉄のスゴイところは自社の収益だけで自主運行していることで、副業の食品製造販売「ぬれ煎餅」の収益で鉄道事業を支えているところである。
 - ・ 銚子電鉄の柏木常務取締役役にいろいろと経緯や現状について伺ってきました。
- ① S38 年(1963 年)頃に廃線が表明されたが住民の存続要望により S44 年(1969 年)から市の欠損(赤字)補助、そして国と県からの欠損補助を受けて運営していた。
 - ② H7 年(1995 年)に「銚電のぬれ煎餅」の販売開始。
 - ③ H15 年(2003 年)以降は欠損補助を受けず自主運行している。ここがスゴイ！
 - ④ H18 年(2006 年)横領事件により経営危機に陥ったとき、ウェブサイトで同社が製造・販売している「ぬれ煎餅」購入を呼び掛けたところ、マスコミなどで話題になり支援をしようという人々から注文が殺到し、窮地を免れたことが有名。
 - ⑤ その後も幾度となく窮地に陥っているが、厳しい経営状況をアピールした自虐的な商品(まずい棒、サングラスを中心とした「お先真っ暗セット」など)をオンラインショップなどで販売したり、オカルト・ダジャレ・パクリ企画の展開、車両内の風船デコレーション、テレビ企画による駅舎建て替え、タレントやゲームとのコラボ、自社映画づくりなど話題には尽きない企画事業を推進している。
 - ⑥ 現在、菓子販売で稼いで、銚子電鉄は地域にあってありがたいにしたいと考えている。電車を走らせるのではなくて、地域を盛り上げることを考えている。観光や地場産のものを大事にしている。

2. 研修所感

- ・ 柏木専務は、「電車を動かすためには何でもやるぞ！の会社です。」「BRT に変えることは考えていません。土日にはたくさんの方が乗りに来てくれています。電車だから来てくれているので変えることはありません。」と言われた。
 - ・ 鉄道の良さをしっかり理解している、そして銚子電鉄は地域活性化、観光戦略の資源として生き残ることを使命としていることを強く感じました。
 - ・ 決めたらすぐにやる。そして、真剣にふざけてやる。人柄はとてもまじめだと感じましたがギャグセンスもある。立派な人物である。
- 自分たちも本気で北勢線再建に取り組まなければならない、と感じました。

以上